

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城北小】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	全体をとおして、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。引き続き、年間を通して継続的に取り組んでいく。また、授業アンケートを基に児童の学習履歴を確認することで、個別の学習計画を立てる参考資料とすることができた。授業アンケートのより効果的な活用方法について、研究を深めていく必要がある。さらに、年間をとおして、計画的に授業を行ったことで、児童が学びを振り返る時間を確保することができた。児童一人ひとりの個人差が見られることから、個別に必要な支援を講じていく必要がある。	
思考・判断・表現	全体をとおして、児童の思考を可視化したり、考えを伝え合ったりする場面を設定することができた。引き続き、ミライシードのオクリンクプラス等を活用の仕方について研究するとともに、効果的な共同編集の位置付けについて理解を深め、児童が協動的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにしていく。また、前時の振り返りを踏まえ、児童とともに必要感のある課題を設定することを意識して取り組んできた。児童が、主体的に課題を解決できるよう引き続き時間を確保していく。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 算数における加減乗除に課題がみられる。<指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定を確保する必要がある。</p> <p><学習上の課題> 自らの学びをメタ認知し、自己調整していくに課題がみられる。<指導上の課題> 児童が自らの学びを振り返る時間を確保する必要がある。</p>	<p>「スタディサプリ」等を活用し、基礎的・基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【毎授業実施】。その際、児童の学習履歴を確認し、個別に学習計画を立てる参考資料とする【月に1度の実施】。授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次時の学びに生かせるようにする【毎時間設定】。</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 自分の考えを表現することに課題がみられる。<指導上の課題> 協働解決の場面において、児童の思考を可視化したり、考えを伝え合ったりする場面を設定する。</p> <p><学習上の課題> 学習に対して意欲的ではない場面がみられる。<指導上の課題> 子ども主体の学びとなるような授業を展開する。</p>	<p>ミライシード等を活用し、児童の思考を可視化したり、考えを伝え合ったりする場面を設定する【毎時間設定】。また、その活動の中に必要に応じて共同編集を位置付け、協動的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする【毎授業実施】。毎時間の振り返りを踏まえ、授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場面を設定する【毎時間設定】。</p>

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	各学年の実情に合わせて、「スタディサプリ」等のデジタル教材等を活用し、基礎的・基本的な計算等の反復・習熟に年間を通して取り組んだ。また、各単元終了後に授業アンケートを実施した。そのアンケートの内容を基に児童の学習履歴を確認することで、個別の学習計画を立てる参考資料とした。さらに、計画的に授業を行ったことで、児童自らの学びを振り返る時間の確保につなげ、次時の学びに生かすことができた。
思考・判断・表現	B	ミライシードのオクリンクプラス等を活用し、児童の思考を可視化したり、考えを伝え合ったりする場面を必要に応じて設定することができた。また、その際、共同編集を位置付け、児童が協動的な学びを通して考えたり、表現したりすることができた。さらに、前時の振り返りを踏まえ、児童とともに必要感のある課題を毎時間設定することができた。児童の学びの振り返りから、必要感のある課題を設定することで、児童が主体的に課題を解決できるようになった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	令和6年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、令和5年度の自校の結果と比較すると、国語+3pt、算数+8ptであった。算数では、「数と計算」領域において課題がみられた。除数が小数である場合の除法における除数と商の大きさの関係について理解が不十分であると考えられる。「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」と思いますが、「上」における肯定的回答が90%を超えていることから、引き続き、基礎的・基本的な計算等の反復・習熟に取り組む、自らの学びを振り返る時間を確保していく。	
思考・判断・表現	令和6年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、令和5年度の自校の結果と比較すると、国語+2pt、算数-2ptであった。「図形」領域において課題がみられた。多角形の面の数とその理由を言葉と数を用いて表現することについて理解が不十分であると考えられる。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」における肯定的回答が90%を超えていることから、協働解決の場面において、児童の思考を可視化したり、考えを伝え合ったりする場面を設定し、子ども主体の学びとなるような授業を引き続き展開していく。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	令和6年度さいたま市学習状況調査において、算数では、特に「数と計算」領域で課題がみられた。3位数×3位数の乗法の計算や小数の減法、減法と除法の混合した整数の計算、小数の加減乗除法の計算等について理解が不十分であると考えられる。生活習慣に関する調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んできましたか」における肯定的回答が85%を超えていることから、引き続き、基礎的・基本的な計算等の反復・習熟に粘り強く取り組んでいく。	
思考・判断・表現	令和6年度さいたま市学習状況調査において、算数では、特に「変化と関係」領域で課題がみられた。単位量あたりの大きさを用いて、こみ具合を比べることや二つの数量の間にある関係から対応する値を求めること等について理解が不十分であると考えられる。生活習慣に関する調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」における肯定的回答が85%を超えていることから、引き続き、協動的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「スタディサプリ」等を活用し、基礎的・基本的な計算等の反復・習熟に取り組んだが、毎授業とはいかなかった。月に1度、児童の学習履歴を確認し、個別に学習計画を立てる参考資料とすることができた。自らの学びを振り返る時間を毎時間設定しているが、時間内に実施できない時もあるため、タイムマネジメントをしっかりと行っていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	児童の思考を可視化したり、考えを伝え合ったりする場を毎時間設定することができた。また、必要に応じて共同編集を位置付けることもできた。前時の振り返りを踏まえ、児童とともに必要感のある課題を毎時間設定することができた。児童が主体的に課題を解決する場も設定したが、充分に実施できない時もあるため、タイムマネジメントをしっかりと行っていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)